

**C-1 指導法の工夫、指導案検討会**

(1) **単元名** 第6学年 算数 「およその面積を求めよう」

(2) **目 標**

- ・身の回りのものを基本図形の概形としてとらえ、およその面積を求めることを理解する。

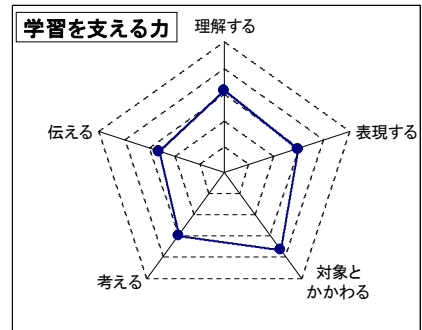
(3) **指導にあたって**

① **教材について**

本単元は、複雑な図形を基本図形の概形としてとらえて、面積公式にあてはめて概測する学習である。図形についての理解を深めると同時に、答えがおよそどれくらいになるかという「見積もり」にも通じている。また、およその体積や容積などの学習にも関連している。

面積については、4年で長方形と正方形、5年で平行四辺形、三角形、円の面積の求め方を学習し、発展として台形やひし形を学習している。さらに、基本図形とは違った形として「葉の面積」を1cm<sup>2</sup>のマスを使ったり、基本図形に見立てて求める方法を学習してきている。また、金沢スタンダードでは発展としてハートや月の形のおよその面積を求めている。

本単元では、既習を生かし、さらに大きなもののおよその面積を公式に当てはめて概測することを扱っている。この学習を通して、およその大きさでとらえる「よさ」や大きなものでも既習が生かせることの「よさ」なども同時に学ばせたい。



② **子どもの実態把握**

(7) **学習を支える力**

「対象とかかわる」がやや高く、単元や教材にはあまり左右されず、課題に対して一生懸命に取り組む子どもが多い。しかし「理解する」の聞くことが特に弱く、課題をかみ砕いたり、繰り返さないで理解できないことがよくある。聞き返さず分からないまま活動に入る子どもも見られる。また「伝える」も弱く、意欲はあっても自信が持てず、表出することに抵抗感がある。発表する子どもが限られたり、発言の声が小さく自分の考えを上手く言えなかったりなどが見られる。学習意欲や集中力に欠ける子どもも見られ、全体で学習する姿勢が弱い。

(イ) **レディネス**

図 形	長 方 形	正 方 形	平 行 四 辺 形	三 角 形	台 形	ひ し 形	ハート型
求積の正解率	100%	94%	97%	82%	21%	47%	29%

**指導法の工夫**

③ **私の仮説**

**既習が生きる支援を工夫すれば、子どもは、自分の考えを持ち、表出することができるであろう**

実態把握から、子どもが自分の考えを持ち、まわりの友達と面積の学習を深めていくには、自分の考えに自信を持たせることが必要である。既習を確実に積み重ね、次の学習に生きるような支援の工夫が必要だと考えた。そこで、単元の導入にハート型の求積を再度学習し、概形を基本図形や複合図形と見る「見立て」の活動を繰り返し、見立ての簡単なものから複雑なものへとステップアップする学習計画を立てた。

## 指導案検討会

### ④ 指導案検討会

指導案検討会では、子どもが学習するプリントを教師みんなで解いてみた。都道府県の面積をおよそで求めることの難しさを感じることができた。子どもに与える都道府県はどれがよいか、いくつ与えるのが適当なのか考えることができた。

また、子どもの実態を厳しくつけることやレーダーチャートを強調して読み取ることなど学習を支える力についても話し合われた。

仮説の既習について、レディネステストを行い、学習前の子どもの状態をできるだけ、詳しく正確に把握しようとした。その実態把握の結果から、単元計画を具体的にすることができた。

指導案検討で問題を解く①



指導案検討で問題を解く②

